

リョービグループ 環境データ 2020

環境マネジメント

独自の環境方針のもと、環境への取り組みを着実に進めています。

環境方針

リョービグループは、経営環境を取り巻く様々なリスクの回避・低減を図り、事業活動から生じる環境負荷を低減するための取り組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. リスク・環境負荷を低減します。

- ①業務プロセスで生じるリスクの特定・回避・低減に取り組みます。
- ②製品のライフサイクルの各段階で生じる環境負荷の特定・低減、環境汚染の予防に取り組みます。
- ③省エネルギー・省資源に取り組みます。
- ④CO₂排出量の削減に取り組みます。
- ⑤産業廃棄物の減量化・再資源化に取り組みます。

2. 環境に関する法令・条例・協定および利害関係者からの要求事項を順守します。

3. 全構成員に対し、環境に関する教育や啓蒙活動を通じて、環境改善に取り組む意識の向上を図ります。

4. 環境保全活動を通じて、地域社会に貢献します。

5. 上記 1～4 を達成するために、環境目標を設定し、施策を実行して、その結果に基づく見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

6. この環境方針は、全構成員に周知させるとともに、社外にも公開します。

環境負荷低減目標

リョービグループでは、CO₂排出量と廃棄物の削減について次の目標を設定し、目標達成に向けて取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

- ・2021年12月までにCO₂排出量生産高原単位を2013年度比で、13%削減する。
- ・CO₂排出量生産高原単位を前年度比1%削減する。

廃棄物の削減

- ・産業廃棄物の分別を図り、リサイクル率99%以上を維持する。

マテリアルバランス

INPUT

原材料

アルミニウム合金・・・77,901t
アルミスクラップ・・・14,541t
鋼材・・・・・・・・・・・・7,367t
プラスチック 他・・・4,650t

エネルギー使用量

電気・・・・・・・・・・・・129,138千kWh
都市ガス・・・・・・・・・・・・6,928千m³
液化天然ガス(LNG)・・・2,112t
液化石油ガス(LPG)・・・747t
油類(原油換算)・・・・・・5,216kl

水使用量

上水・・・・・・・・・・・・91千m³
地下水・・・・・・・・・・・・1,061千m³

PRTR法対象化学物質

取扱量・・・・・・・・・・・・20t

2020年度 国内実績

ダイカスト



建築用品



印刷機器



OUTPUT

製品

ダイカスト製品・・・・・・76,082t
ダイカスト用金型・・・・・・2,661t
アルミニウム鋳物・・・・13,724t
プラスチック製品・・・・2,225t
アルミニウム合金・・・・14,717t
ドアクローザ・・・・・・128,084台
印刷機・・・・・・・・・・・・590ユニット

温室効果ガス

CO₂ 排出量・・・・・・109,286t-CO₂

廃棄物

廃棄物・・・・・・・・・・・・6,092t

排水量

排水量・・・・・・・・・・・・819千m³

PRTR法対象化学物質

大気への排出量、移動量・・・5t

環境パフォーマンスデータ

CO₂削減への取り組み

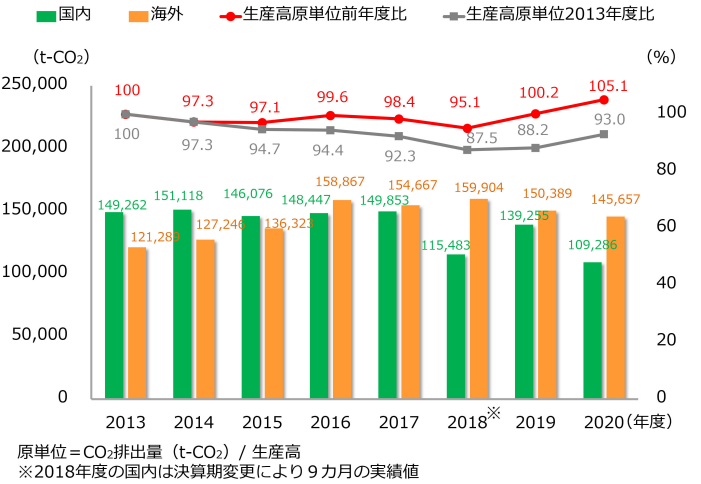
さまざまな省エネルギー施策を実施し、CO₂排出量生産高原単位を削減

リョービグループでは、「2021年12月までにCO₂排出量生産高原単位を2013年度比で13%削減する」「CO₂排出量生産高原単位を前年度比1%削減する」という2つの目標を掲げ取り組んでいます。

2020年度のCO₂排出量生産高原単位は、2013年度比93.0%(7.0%の削減)、前年度比105.1%(5.1%の増加)となりました。

アルミ溶解炉の燃料転換、加工機械付帯設備の改善、鑄造機保持炉の放熱防止、コンプレッサーの効率的な利用およびエアリーク改善など、さまざまな省エネルギー施策を実施することで原単位の改善に努めています。

CO₂排出量の推移

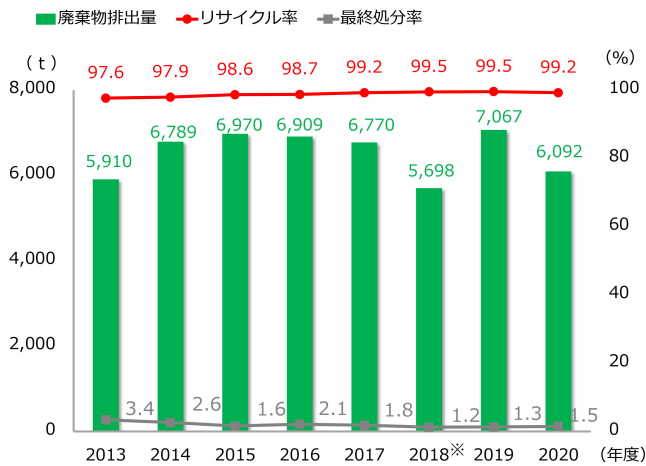


廃棄物への取り組み

埋め立て処理が必要な廃棄物の排出量を削減

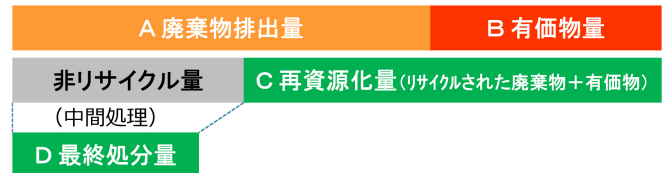
2020年度の国内の廃棄物排出量は6,092tとなりました。廃棄物の分別の徹底により埋め立て処理される廃棄物の排出量を減らすことで、リサイクル率は99.2%、最終処分率は1.5%となりました。

廃棄物排出量の推移



$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{C再資源化量}}{\text{A廃棄物排出量} + \text{B有価物量}}$$

$$\text{最終処分率} = \frac{\text{D最終処分量}}{\text{A廃棄物排出量}}$$



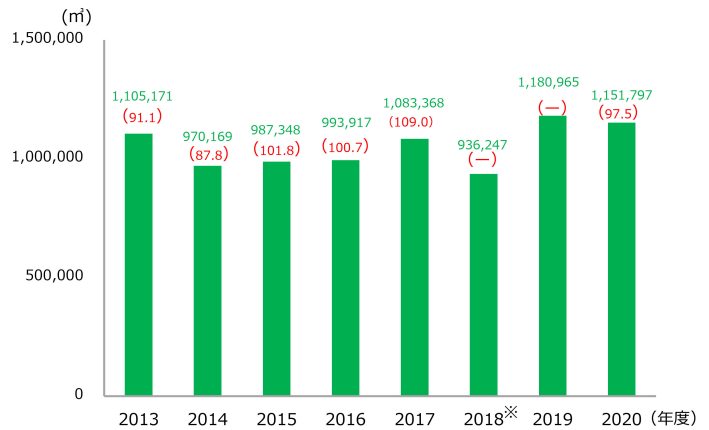
水資源の効率利用への取り組み

水使用量の削減の取り組みを継続

2020年度の国内の水使用量は、約1,152千m³となりました。

工業用水の循環利用や流量計確認による漏水への早期処置対応など、使用量を適切に管理することで使用量の削減に取り組んでいます。

水使用量の推移



()内は前年度比 (%)
 ※2018年度は決算期変更により9カ月の実績値
 (2018・2019年度の前年度比は前年との期間が異なるため非算出)

物流関連への取り組み

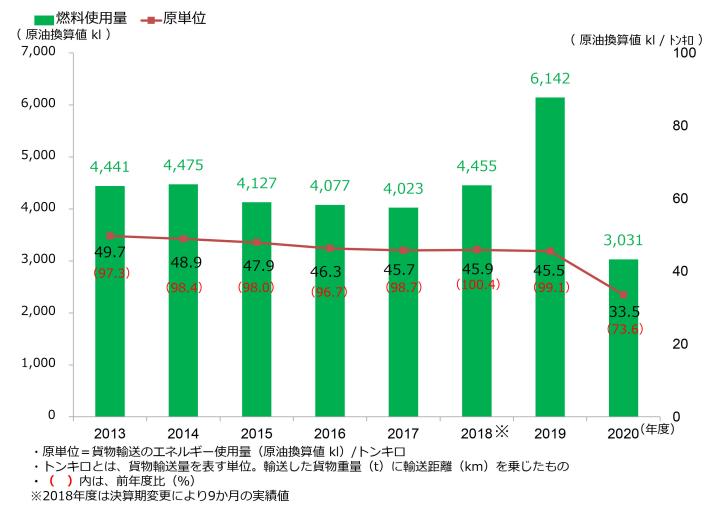
効率的な物流システムの構築を推進

エネルギー使用の合理化を目的とし、貨物輸送に関するエネルギー(燃料)の使用量の削減、効率的な物流システム構築を進めています。

2020年度の国内の貨物輸送に関するエネルギーの使用量は、原油換算値で3,031klとなりました。また、1tの貨物を1km運搬するのに要する原油量(原単位)は、26.4%減少しました。

出荷拠点の見直しによる輸送距離の短縮、荷姿の見直しによる積載効率の向上、無駄な倉庫間の移動の削減などにより、輸送の効率化に取り組んでいます。

貨物輸送に関するエネルギー(燃料)使用量の推移



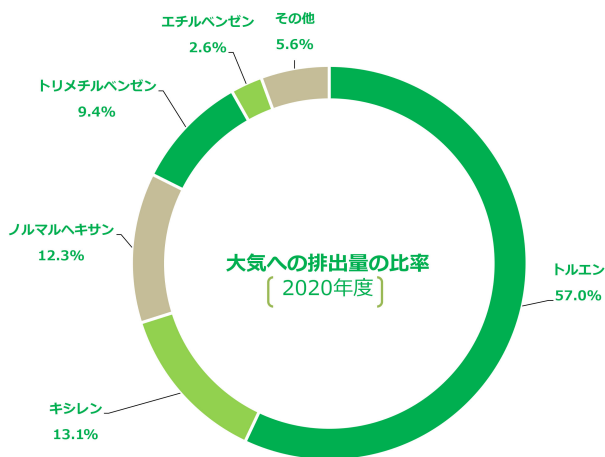
・原単位 = 貨物輸送のエネルギー使用量(原油換算値 kl) / トンキロ
 ・トンキロとは、貨物輸送量を表す単位。輸送した貨物重量(t)に輸送距離(km)を乗じたもの
 ・()内は、前年度比 (%)
 ※2018年度は決算期変更により9カ月の実績値

有害物質への取り組み

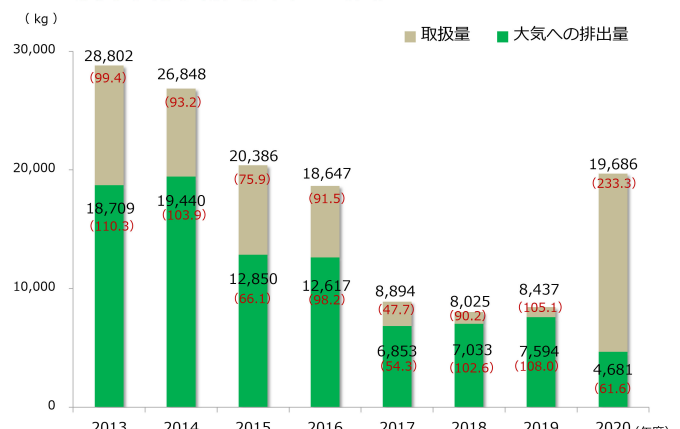
有害物質の大気中への排出量を削減

2020年度の国内のPRTR法対象化学物質の取扱量は19.7t、大気中への排出量は4.7tとなりました。

取扱量は、2020年度よりA重油に含まれるメチルナフタレンを集計したことにより、2019年度に比べ11.2t増加しました。



PRTR法対象化学物質排出量の推移



・()内は、「取扱量」「大気への排出量」の前年度比 (%)
 ・取扱量は、2020年度よりA重油に含まれるメチルナフタレンを集計・算入